



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会員からのメッセージ

上海稲門会ゴルフ部会には、約60人のメンバーが在籍しています。初心者からシニアプレーヤーまで、20代から70代までの老若男女がゴルフを一緒に楽しんでいます。一方、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、毎年春に開催される年に一度の大イベントである上海大学対抗ゴルフ大会は2020年、21年ともに中止。東京六大学ゴルフ大会を始めとした対抗戦は、20年は中止となっていましたが、21年に再開するなど、国内移動の一部にまだ制限がある中、上海市内にて密を避けたゴルフ活動を再開しています。稲門会内はもちろん、ゴルフを通じて他校との交流も深めることで、コロナ禍、一時帰国もままならない中でのストレス発散の場となっています。主力メンバーの帰任ラッシュが続いているものの、新規メンバーが次々と加わっていくのが早稲田の底力。22年こそは、第21回上海大学対抗ゴルフ大会が開催されることを祈り、参加校最多5回目の優勝を目指します！

小池恭久(1994年政経)



校友の協力の下、現地の若者にも人気の「Niko and...」旗艦店にて12月定例会を開催

中国大陸では20年6月には感染の第一波が一段落し、その後は、散発的な国内の感染を徹底した検査と隔離でしのいできていますが、常に一貫した脅威への対策として行っているのは入国・帰国者への隔離政策です。21年11月現在、上海では14日間のホテル隔離+7日間の自宅健康観察ですが、地域によっては通常の生活に戻るまで28日を要する地域もあります。

私は20年11月に杭州便で、21年8月には上海便で上海に戻りました。入国に必要な事前検査、上海では6～7時間かかる飛行機の到着から隔離ホテルまでの移動プロセス、部屋から一歩も出られない14日間のホテル隔離はかつてない経験でしたが、私は2回ともとても順調に過ごすことができました。

それには経験者のレポートや、情報共有による助けは大きく、上海稲門会でもZoom定例会での入国に関する情報交換が行われました。私自身も自分の経験をまとめたレポートを稲門会チャットで共有したり、新しく赴任する予定の方とSNSで交流したりと、その流れを紡いできましたが、このようなつながり、互助も、現地に根づく海外稲門会ならではの活動意義であると実感しています。

22年も日本との往来が不便な状態は続くと思いますが、これからも現地で支え合える活動ができればと思います。

金子亜紀子(1988年文学)

2014年3月に上海稲門会会長を拝命し、あっという間に8年が過ぎました。1988年4月に西原春夫総長の来海を機に、上海稲門会が発足して以来30年以上。毎月第3水曜日開催の定例会は、幾度かのお休みはあったものの何とか続けてこられたのですが、20年はコロナ禍で残念ながら長期休会せざるを得ず、Zoomを利用したバーチャル定例会が続いていました。21年10月から定例会も再開でき、現在に至ります。

上海市のコロナ禍への対応について一言でいうと、非常にメリハリがはっきりしています。地下鉄やバスはマスクを着用していないと絶対に乗車させてくれません。2週間の強制隔離のルールも徹底しています。笑い話のようですが、校友の一人は、やっとの思いで2週間の強制隔離が完了してホテルをチェックアウトする際に、誤って隔離開始の人たちの利用するエレベーター（無人だったのですが、消毒前でした）に乗ってしまい、改めて2週間の隔離をさせられてしまいました。ただ、一方では、ビルに入場する際の検温とマスク着用は求められるものの、盛

り場の人出は真夜中でも絶えることはありません。

上海市について少し触れさせていただきます。上海の人口は約2,400万人、面積は栃木県・群馬県とほぼ同じ広さで、国際都市であると同時に、中国共産党の発祥の地でもあります。初代共産党総書記の陳独秀は早稲田大学の留学生で、同じく早稲田大学の留学生であった李大釗と、「南陳北李 相約建党」と呼ばれ、現代の中国の基礎を作った人物と言っても過言ではありません。

そうしたこともあり、中国での早稲田大学の知名度は群を抜いており、タクシーの運転手でさえ、ザオダオディエン(早稲田)大学を知っているのはまさに驚きです。

崇高な早稲田大学のイメージを崩すことなく、上海稲門会一同、中国からの留学卒業生と一緒に、仲間同士の絆を深め、よりいっそうの早稲田大学のイメージ高揚に貢献したいと願っています。

佐久間敏裕(1971年政経)

会員からのメッセージ

カーテンを開けると雲一つない真っ青な空に、太陽の光が輝いている！ 雨模様のお天気が続き、毎日やきもきしながら過ごす中で、上海稲門会の久しぶりの屋外イベントのバーベキューは、これ以上のお天気はないという秋晴れの中で開催されました。

上海稲門会は同窓会組織ということもあり、

バーベキュー大会では、食材も稲門ネットワークにより調達！



普段は卒業生のみが集まることが多いのですが、年に数回、家族も参加できるイベントを開催しています。今回は屋外でのバーベキューということで、稲門ネットワークを通じておいしい肉や野菜を仕入れ、草履くらのサイズの厚切り本格ステーキを焼いたり、縄跳びゲームや早稲田クイズで盛り上がりたり。

新型コロナウイルスで上海と日本との間を自由に往來することが難しくなって2年以上たち、本当は家族に会いたい、婚約者や友人に会いたいなど心の中で思いながら過ごしている海外の校友も多いと思います。距離は近いのになかなか行けない日本！ そんな日本を思いながら、青い空の下で今日もわれらが上海稲門会は頑張っています。

三宅亜紀子(1995年法学)



2021年に2年ぶりに開催された東京六大学対抗ゴルフ大会

※掲載されている情報は2021年11月時点のもので、現在の状況は変わっている可能性があります。